作品発表

新美南吉ゆかりの建築たち
—ビール会社と教員時代の下宿—

The Buildings connected with Nankichi Niimi in Handa and Anjo city, Aichi Prefecture

水野信太郎

MIZUNO Shintaro

作品－1　新美南吉が愛した旧カブトビールの南面

作品－２　カブトビール以降の旧日本食品化工北面

作品－３　愛知県安城市新田町出郷に残る南吉下宿

作品－４　新美南吉が教員時代に居住した和室８畳

作品－５　南吉居室の南面を北側の縁先から見渡す

昨年の当センター年報「作品発表」に引き続き童話作家・新美南吉（にいみ・なんきち，1913～1943）にゆかりのある愛知県内の建築物を披瀝する。作品－１は南吉の生家である渡辺家の畳店・下駄屋から，半田の市街地を経て，国鉄「半田」駅へと至る街道沿いにある旧ビール会社。明治30年（1897）９月１日に着工し，翌31年10月31日に竣工した。当施設は当初，丸三麦酒（まるさんビール）株式会社の社名であったが，同年から売り出したカブト（兜）ビールという商品名の方が広く知られるようになり，ちょうど10年後の明治41年には会社名まで加富登麦酒株式会社に変更するほどであった。

甘党であった新美南吉自身はビールよりも菓子店へ足しげく通うのであったが，旧カブトビールの工場と西隣の住吉神社一帯を好んでいた。作品－１と２は，同社が戦前にビール製造を中止し，戦後に他社の日本食品化工株式会社半田工場の操業中である。同社はビールにも使用されるコーン・スターチという糖類を製造していた。

作品－２が同社の煉瓦造工場を北東方向から撮影した旧状である。中央煉瓦造の塔は５階建である。このタワーは現存するが，左手の東側へのびていた煉瓦造２階建は保存行政の渦中で解体されてしまった。明治建築界№２の妻木頼黄（つまき・よりなか，1859～1916）が設計した竣工時の翼部であったので，今日でも悔やまれる。

版画－１　安城高女の校舎前に立つ南吉（水野制作）

作品－３は，新美南吉が愛知県立安城高等女学校の英語と国語と農業担当教諭として勤務していた時に下宿していた建物である。安城市新田町出郷（あんじょうし・しんでんちょう・でご）という整然と区画された歴史的な集落内で，保存公開されている。大正後期に築造されたと見られる長屋門で，向かって左手（西側）の大きな窓が南吉の居室であった。室内は８畳間の東面に床の間（作品－４）が構えられている。左側遠景には，井戸と便所など別棟の附属屋が北東方向にある。

作品－５は南吉居室の南面。中央の引違い窓が，作品－３左側の窓の屋内面である。窓際の座机を用い，この下宿で南吉後年の代表作が執筆されたのであろうか。

柱の掛け時計は元来この部屋にあったものではなく，昭和６年竣工の母屋（おもや・現存）で使われていたのだが，新美南吉自身がこの時計の鐘を実際に聞きながら生活したゆかりに因んで公開中の旧居室に掛けられている。南吉が安城の下宿に住んだのは，昭和14年（1939）４月から同17年の秋季までであった。

版画－１は，安城高等女学校の校舎前で木立に半身をもたれ掛ける新美南吉の姿である。一生涯を通じて金銭的に恵まれることの少なかった彼にとっては数少ない，経済的にも社会的にも安定した幸福な時期であった。だが間もなく折角の職場をも病気のため去り，程なくして29歳７箇月で早世することとなる。版画の健康そうな時期からは，１年と11箇月後のことであった。

本研究は北翔大学北方圏学術情報センター（通称ポルト）より特別研究費の対象研究内容として認められた。末尾ながら当紙面を拝借して謝意を表するものである。